

CASBEE神戸ver.3

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE神戸ver.3/CASBEE 評価（新編）2016年版（使用評価ソフト：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-6D_NC_2016(v3.0)）

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)北須磨支所ビル新築工事	階数	地上7F
建設地	神戸市須磨区中落合2丁目14-3	構造	S造
用途地域	商業地域、防火指定なし	平均居住人員	350人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,100時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年5月 予定	評価の実施日	2022年12月14日
敷地面積	1,782 m ²	作成者	株式会社ユーデーコンサルタンツ 竹内拓
建築面積	1,191 m ²	確認日	2022年10月14日
延床面積	6,601 m ²	確認者	株式会社ユーデーコンサルタンツ 近藤瑞枝



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.7

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 3.0	Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 4.6 Q-2/2.4 信頼性 3.2	Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 4.0
配慮の概要 0	配慮の概要 0 基準の1.5倍の耐震性を有している	配慮の概要 周辺のまちなみに調和する景観計画としている
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
(仮称)北須磨支所ビル新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.4
Q1 室内環境					0.40				3.3
1 音環境				3.2	0.15				3.2
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音				3.0	0.40				
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音		床、天井の二面に吸音材を採用		4.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				2.5	0.35				2.5
2.1 室温制御				3.2	0.50				
1 室温				3.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能		適切な断熱と窓性能を確保		4.0	0.25	3.0	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38				
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式				1.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				3.8	0.25				3.8
3.1 昼光利用				3.6	0.30				
1 昼光率		U=2.0%以上		4.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口					-	3.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30				
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度		机上面平均照度750lxを確保		4.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御		リモコンスイッチ及び明るさセンサーで制御可能		5.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境				4.3	0.25				4.3
4.1 発生源対策				5.0	0.50				
1 化学汚染物質		全般的に告示対象外又はF☆☆☆☆の建築材料を使用		5.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.3	0.30				
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室面積の1/30以上		4.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理				4.0	0.20				
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50				
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	0.50				
Q2 サービス性能					0.30				3.4
1 機能性				2.8	0.40				2.8
1.1 機能性・使いやすさ				1.6	0.40				
1 広さ・収納性				1.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.33	3.0	-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33				
1.2 心理性・快適性				4.3	0.30				
1 広さ感・景観		十分な屋外の情報を得られるように窓と天井高の確保		4.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上の休憩室の確保		4.0	0.33				
3 内装計画		明確なコンセプトと機能を反映した内装計画の実施		5.0	0.33				
1.3 維持管理				3.0	0.30				
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50				
2 耐用性・信頼性				4.1	0.30				4.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				4.6	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		必要保有水平耐力の1.5倍を有している		5.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				4.0	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		主な外装材の耐用年数は30年以上		5.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		主な内装材の耐用年数は20年以上		5.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		外部露出ダクトについて長寿命化を図っている		5.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の2種類以上にC以上を使用し、Eは不使用		4.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20				
2.4 信頼性				3.2	0.20				
1 空調・換気設備		熱源種(電気・ガス)の分散化をしている		4.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20				
3 電気設備				3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20				
5 通信・情報設備				3.0	0.20				

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	3.9m以上である	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.30未満	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.7
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			周辺のまちなみに調和する景観計画とシパースで検証をしている		4.0	0.40	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用等で地域貢献をしている	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制			高い外皮性能を確保している		5.0	0.20	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.69		4.1	0.50	4.1
4 効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			省水型機器を過半以上に採用		4.0	0.40	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
2.1	材料使用量の削減	BCP鋼材の採用等	4.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	基礎に高炉セメントを採用	5.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	再利用できるユニット部材の採用等	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.4	0.20	-	-	3.4
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.6	0.70	-	-	
1	消火剤	不活性ガス(窒素ガス)消化剤を採用	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP0、GWP3以下の断熱材の採用	4.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	荷捌き用車両スペースの確保等で交通負荷に配慮	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインのチェックリストの過半を満足	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	